

農作物の生育状況と今後の見通し

農業振興戦略監とつとり農業戦略課 研究・普及推進室 まとめ  
令和元年11月14日 現在

作物名	生育状況等	今後の見通しと対策
作物	<p>水稻</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収量と品質は平年並。中生品種を除いては、玄米タンパクが高い傾向である。</li> <li>・地域や品種によっては、くず米が多いとの情報がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>
	<p>大豆</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・晩生を除いては、収穫期を迎えている。</li> <li>・莢付は良好であるが、地域によっては、汚損粒が多いとの情報がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫作業の進行に努める。</li> </ul>
	<p>麦</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業試験場の生育観測ほ場では、11月1日播種で11月11日が出芽揃いを迎えた。</li> <li>・現地ほ場では、二条大麦播種予定のほ場では10月末から播種が行われている。小麦播種作業は水稻跡、早生大豆跡ほ場で行われている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排水を促しながら適期播種に努める。播種後も排水に努める。</li> </ul>
果樹	<p>ナシ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・晩生梨(王秋、あたご)の収穫、選果作業中である。</li> <li>・落葉は、気温が高い影響で遅れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病害虫の越冬量を減らすため、落葉の処分を徹底する。</li> <li>・積雪に備えて、棚の点検を行い、不良箇所を補修する。また、中柱(突き上げ柱)やモウソウ竹による支えを入れる。作業小屋などに、あらかじめ融雪材(モミガラくん炭など)を用意しておく。</li> </ul>
	<p>カキ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富有は収穫の最盛期を迎えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積雪に備えて、モウソウ竹で大枝の突き上げをしておく(枝折防止)。</li> </ul>
野菜	<p>白ねぎ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【春ねぎ】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一部の地域でやや生育が遅れているが、全県的に概ね順調に生育。</li> </ul> </li> <li>【夏ねぎ】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・9月下旬から順次播種され、育苗中。育苗は概ね順調。</li> </ul> </li> <li>【秋冬ねぎ】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・L規格中心の出荷となっており、やや肥大がよくない。例年より1~2週間の生育の遅れがみられ、ようやく生育が進んできた状況。出荷中だがL規格中心で、全県的にやや肥大がよくない。</li> </ul> </li> <li>【病害虫】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月上旬にネギ黒腐菌核病の初発が確認されている。一部でさび病、葉枯病が発生しているが、影響はほとんどない。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【夏ねぎ】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月末から定植となる見込み。</li> </ul> </li> <li>【秋冬ねぎ】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・積雪地では畝の両サイドにハウスバンドを張る等、降雪による葉折れ防止対策を実施する。</li> <li>・さび病の予防防除を徹底するとともに、発生ほ場では早期に防除を行う。</li> <li>・小菌核腐敗病の発生時期を迎え、土寄せ時の予防防除を徹底する。</li> <li>・ネギ黒腐菌核病の発生が懸念されるほ場は、生育期防除を徹底する。</li> </ul> </li> </ul>
	<p>ブロッコリー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【秋冬ブロッコリー】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・例年より気温が高く、前倒し傾向の出荷となっている。収穫進捗は全体の2割程度。</li> <li>・一部で黒すす病、べと病が発生しているが、影響は少ない。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫時期が計画よりも早く、定植時期別の収穫が重なる恐れもあるため、必要に応じてM規格収穫などで収穫期間を短くし、労力を分散する。</li> <li>・べと病、菌核病の防除を徹底する。</li> </ul>
	<p>らっきょう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福部地区、北栄地区とも概ね順調に生育中。</li> <li>・一部のほ場では、台風19号の強風、黒点葉枯病による葉枯症状がみられるが大きな影響はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低温期に入るため、白色疫病の予防防除を徹底する。</li> <li>・種球ほ場のウイルス症状を示す株の抜き取りを徹底する。</li> </ul>
	<p>ミニトマト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫終盤にさしかかるが、出荷量はほぼ昨年並みで順調に出荷中。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熟期促進のため、ハウスの保温に努める。</li> <li>・収穫は12月末まで続く見込み。</li> </ul>
	<p>にんじん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月10日から秋冬にんじんの出荷が始まっている。</li> <li>・9月播種分は台風による強風で葉傷みが見られ、例年より生育が遅れている。</li> <li>・台風19号で塩害を受けたほ場は、新葉が展開し地上部生育は回復してきているものの、大幅に生育が遅れている。</li> <li>・10月下旬の降雨後に、斑点細菌病が一部で発生している(H27以来の発生確認)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・斑点細菌病の防除を徹底する。</li> <li>・一部、塩害を受けたほ場は、大幅な生育遅れで収穫に至らない可能性がある。</li> </ul>
花き	<p>シンテッポウユリ(抑制作型)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【中部地区】 <ul style="list-style-type: none"> <li>倉吉市:残り1割程度となり、収穫はほぼ終了。</li> <li>北栄町:収穫は8~9割終了。現在の出荷量は日量3000本~1000本程度。出荷ピークは10月上旬だった。期間を通して1~2輪が出荷本数全体の半数を占めている。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出荷量が減少しているため、今後は週2回の出荷となる見込み。</li> </ul>
	<p>ストック</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【東部地区】 <ul style="list-style-type: none"> <li>鳥取市:3月彼岸出し作型。草丈10~15cm程度。やや欠株が多いが、病害虫の発生は見られない。</li> </ul> </li> <li>【中部地区】 <ul style="list-style-type: none"> <li>倉吉市:7月下旬から8月始め播種作型の収穫は終了した。ほ場によりコナガの発生が見られる。</li> <li>三朝町:1戸が補助事業(県1/3、市町村1/6)を活用し、早咲きジオライト(遠赤色光LEDライト)を導入・設置し、利用を始めた。</li> <li>北栄町:現在収穫中。スタンダードで3~4万本/日(週3)、65円/本、スプレーで1万本、90円/本。一部に花の傷みがみられた。アブラムシの発生がみられる。なお、8月20日頃の播種分は花芽分化が遅れたため、電照による開花促進を指導している。</li> </ul> </li> <li>【西部地区】 <ul style="list-style-type: none"> <li>大山町:7月中旬播種の収穫が終了している。現在は7月下旬播種の作型が出荷ピーク、8月上旬播種の作型の収穫が始まっており、収穫開始時期は平年並みである(11月上旬)。</li> <li>オールダブルの試作品種は開花が始まっている。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は比較的気温が高く、依然としてコナガ、アブラムシの発生が見られるため、定期的な防除を実施する。</li> <li>・気温が低下するに伴い菌核病の発生が懸念されるため、定期防除を徹底する。</li> </ul>
	<p>飼料用トウモロコシ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【東部地区】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・坪刈り収量は平均6.2t/10aで昨年比132%と増加した。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年春の播種に向け、堆肥散布や除草作業を進める。</li> </ul>
畜産	<p>イタリアンライグラス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【中部地区】 <ul style="list-style-type: none"> <li>北栄町、琴浦町:播種ほぼ終了。10月播種分の生育順調。</li> </ul> </li> <li>【西部地区】 <ul style="list-style-type: none"> <li>大山町:9月播種分の生育順調、草丈15cm程度。</li> <li>米子市、南部町、伯耆町:播種中</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イタリアンライグラス</li> <li>【西部地区】 <ul style="list-style-type: none"> <li>大山町:播種は11月中に終了見込み。</li> </ul> </li> </ul>
	<p>飼料用稲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【東部地区】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・9/6から鳥取市内海中で収穫が始まり、190haのうち約120haが終了。</li> </ul> </li> <li>【西部地区】 <ul style="list-style-type: none"> <li>伯耆町:収穫中</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>飼料用稲</li> <li>【東部地区】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫は、好天が継続すれば11月末に終了見込み。</li> </ul> </li> </ul>